

かり どうじ
雁 の 童子
wild goose boy
みやざわ けんじ
宮沢 賢治
Miyazawa (p,s)Kenji (m)

ひょうき
[表記 について]
(vs) declare
ていほん したが しょうがっこう ねん がくしゅうはいどう かんじ のぞ
● 底本 に 従い、 小学校 1・2 年の 学習 担当 漢字 を 除く 漢字にはルビをつけた。ただし、
original text to follow primary school year (vs) study share Chinese characters to except ruby however
どういつ ごく しょしゆつ
同一 語句についてはルビは 初出 のみ につけた。
identical words first appearance(suf) only
ルビ けいしき しょり
● ルビは「漢字」の形式で 処理 した。
form (vs) processing
ばんごう にゆうりよく シャ ホ ちゆう しめ まつび お
● [※ 番号] は、 入力 者の 補 注 を 示す。補注は、ファイルの末尾に置いた。
number (vs) input person supplement(vs) annotation to denote file end to place

るさ みなみ やなぎ かこ ちい いずみ わたくし むぎこ みず ひる
流沙 [※1] の 南 の、 楊 で 囲まれた 小さな 泉 で、 私 は、 いった 麦粉 を 水 に といて、 昼 の
Rusa (loc) south willow to surround small spring myself to roast wheat flour water noon
しょくじ
食事 を して おります。
(vs) meal

ひとり じゆんれい き
そのとき、 一人 の 巡礼 の おじいさん が、 やっぱり 食事のために、 そこへ やって 来ました。 私たちは
one person pilgrimage male senior-citizen (id) (uk) also to come

かる れい
だまって 軽く 礼 を しました。
to be silent light bow

はんいち ひと であ たび
けれども、 半日 まるっきり 人 にも 出会わない そんな 旅 でしたから、 私は 食事が すんでも、 すぐに 泉と
however half day completely person to come across (vs) travel to finish instantly

としと わか
その 年老った 巡礼 と から、 別れて しまいたく は ありませんでした。
to age to part from

ろうじん たか のどぼとけ うご み なに
私は しばらく その 老人 の、 高い 咽喉仏 の ぎくぎく 動く のを、 見ると も なしに 見て いました。 何か
little while the aged tall adam's apple (vi) to move to see without something

はな か おも むこ しず
話し 掛けたい と思いましたが、 どうも あんまり 向う が 寂か ないので、 私は 少少 きゅうくつ にも 思いました
to talk (to someone) to think the other party (an) quiet uneasy

ほこら みつ たい
けれども、 ふと 私は 泉の うしろに、 小さな 祠 の あるのを見付けました。 それは 大へん 小さくて、
suddenly behind small shrine to discover very

ちりがく たんけんか ひょうほん も い まった
地理学者や探検家ならば ちよつと 標本 に 持って 行け そうなものでは ありましたが まだ 全く あたらしく
geography explorer somewhat example to take yet indeed new

き あか ぬ まえ そまつ いっぽん はた
黄いろと赤の ペンキ さえ 塗られて いかにも 異様に 思われ、 その 前には、 粗末 ながら 一本 の 幡も
yellow red (nl:) paint (nl: pek) even to paint really odd before (an) crude one long thing flag

た
立って いました。
to stand

おわ
私は 老人が、 もう 食事 も 終り そうなのを見て ため ねました。
the end

しつれい どう
「 失礼 ですが あのお堂 は どの なたを おまつり したのですか。」
(an) (vs) (id) discourtesy hall (uk) who? worship

ど
その 老人も、 たしかに 何か、 私に 話しかけ たくて いたのです。 だまって 二、 三 度 うなずき ながら
certainly times (three times, etc.) (uk) to nod

くだ ひ い
、 その たべもの を のみ 下して、 低く 言いました。

to swallow (vs) lowering to say

「……童子のです。」

「童子って どう云う 方 ですか。」
(uk) what kind of person

「雁の童子と仰っしゃるのは。」老人は 食器 をしまい、 屈んで 泉の水をすくい、きれいに 口 をそそいでか
(IV) (hon) to say tableware to lean over clean mouth to pour (into)
らまた云いました。

「雁の童子と仰っしゃるのは、まるで この頃 あった 昔ばなし のようなのです。この地方にこのごろ
so to speak recently legend area

降りられました天童子だということです。このお堂はこのごろ流沙の 向う側 にも、あちこち 建っております。
to descend opposite side here and thereto be built

「天 のこどもが、降りたのですか。 罪 があって天から流されたのですか。」
heaven child crime to float

「さあ、よくわかりませんが、よくこの 辺 でそう申します。多分 そうでございましょう。」
vicinity to say perhaps

「いかがでしょう、聞かせて下さいませんか。お急ぎ できえなかつたら。」
to tell please urgency

「いいえ、急ぎはいたしません。私の聴いただけお 話 いたしましょう。
to hear just (io) talk

沙車 [※2] に、須利耶圭 という人がございました。 名門 ではございましたそうですが、おちぶれて
Sasha (loc) Suria (s) Kei noted family to come to ruin
奥さまと二人、ご自分は昔からの 写経 を なさり、奥さまは機を織って、しずかにくらしでいられまし
his wife couple oneself copying sutras (IV) (hon) to do loom to weave peaceful to live
た。

ある 明方、須利耶さまが 鉄砲 をもったご自分の 従弟 のかたとご 一緒に、野原を
dawn gun cousin (male, younger than the writer) together (with) field
歩いていられました。地面はごく麗わしい青い 石 で、空がぼうっと白く 見え、雪もま近でございまし
to walk ground very beautiful blue stone sky faintly white appearance snow soon
た。

須利耶さまがお従弟さまに仰っしゃるには、 お前 もさような 慰みの 殺生 を、もういい加減やめたら
(fam) you (sing) (an) such comfort killing right to stop

どう だと、斯うでございました。
how about thus

ところが従弟の方が、まるですげなく、やめられないと、ご 返事 です。
however as though gruff (vs) reply

(お前はずいぶんむごい やつ だ、お前の傷めたり 殺したりするものが、 一体 どんなものかわかつ
extremely cruel (vulg) fellow to damage to kill what on earth? what kind of
ているか、どんなものでもいのちは悲しいものなのだぞ。) と、須利耶さまは重ねておさとしになりました。
(mortal) life sorrowful once more admonition

(そうかもしれないよ。けれどもそうでないかもしれない。そうだとすれば おれ は 一層
I (boastful first-person pronoun) much more

おもしろいのだ、まあそんな下らない話はやめろ、そんなことは昔の 坊主 どもの言うこった、見ろ、向う
amusing to get down Buddhist priest
を雁が行くだろう、おれは 仕止めて 見せる。) と従弟のかたは鉄砲を構えて、走って見えなくなりました
to bring down (a bird) to show to set up (I) to run

須利耶さまは、その大きな黒い雁の 列 を、じっと眺めて 立たれました。
black queue steadily to gaze at to stand

そのとき俄かに向うから、黒い尖った弾丸が昇って、まっ先きの雁の胸を射ました。

雁は二、三べん揺らぎました。見る見るからだに火が燃え出し、世にも悲しく叫びながら、落ちて

まい
参ったのでございます。
(hum) to go

弾丸がまた昇って次の雁の胸をつらぬきました。それでもどの雁も、逃げはいたしませんでした。

却って泣き叫びながらも、落ちて来る雁に随いました。

第三の弾丸が昇り、
第四の弾丸がまた昇りました。

六発の弾丸が六疋の雁を傷つけまして、一ばんしまいの小さな一疋だけが、傷つかずに残っていたの

でございます。燃え叫ぶ六疋は、悶えながら空を沈み、しまいの一疋は泣いて随い、それでも雁の正しい

列は、決して乱れはいたしません。

そのとき須利耶さまの愕ろきには、いつか雁がみな空を飛ぶ人の形に変わっておりました。

赤い焔に包まれて、歎き叫んで手足をもたえ、落ちて参る五人、それからしまいに只一人、

完いものは可愛らしい天の子供でございました。

そして須利耶さまは、たしかにその子供に見覚えがございました。最初のは、もはや地面に

達します。それは白い鬚の老人で、倒れて燃えながら、骨立った両手を合せ、須利耶さまを拜む

ようにして、切なく叫びますのには、

(須利耶さま、須利耶さま、おねがいでございます。どうか私の孫をお連れ下さいませ。)

もちろん須利耶さまは、馳せ寄って申されました。《いいとも、いいとも、確かにおれが引き取ってやろう。

しかし一体お前らは、どうしたのだ。》そのとき次々に雁が地面に落ちて来て燃えました。大人もあれば

美しい瓔珞をかけた女子もございました。その女子はまっかな焔に燃えながら、手をあのおしまいの

子にのぼし、子供は泣いてそのまわりをはせめぐったと申します。雁の老人が重ねて申すには、

(私共は天の眷属 [※3] でございます。罪があつてただいままで雁の形を受けておりました。只今

報いを果しました。私共は天に帰ります。ただ私の一人の孫はまだ帰れません。これはあなたとは縁

のあるものでございます。どうぞあなたの子にして子育てを願います。おねがいでございます。) と欺うで

須利耶さまが申されました。

(いいとも。すっかり 判った。引き受けた。安心 してくれ。)
thoroughly to understand to guarantee (vs) relief

すると老人は手を擦って地面に 頭 を垂れたと思うと、もう燃えつきて、影 もかたちもございませんでした
to rub head to lower shade form

。須利耶さまも従弟さまも鉄砲をもったまま ぼんやり と立っていましたそうであつた二人いっしょに
(vs) absent-minded

ゆめ み 夢を見た のかとも思われましたそうですがあとで従弟さまの申されますにはその鉄砲はまだ 熱く 弾丸は
to dream hot (thing)
へ 減って おりそのみんなのひざまずいた 所 の 草 はたしかに倒れておったそうでございます。
(vi) to decrease (in size or number) everyone to kneel place grass

そしてもちろんそこにはその童子が立っていましたのです。須利耶さまはわれにかえって童子に向って云
oneself to go home
われしました。

(お前は今日 からおれの子供だ。もう泣かないでいい。お前の前のお母さんや 兄さん たちは、立派な 国
this day (hon) mother older brother (an) splendid country

に昇って行かれた。さあ おいで 。)
to come here (from old Japanese)

須利耶さまはごじぶんのうちへ戻られました。 途中 の野原は青い石でしんと子供は泣きながら随いて参
to return on the way dead silent
りました。

須利耶さまは奥さまとご 相談 で、何と名前をつけようか、三、四日お 考え でしたが、そのうち、
discussion name thinking eventually

話はもう沙車 全体にひろがり、みんなは子供を雁の童子と呼びましたので、須利耶さまも仕方なくそう呼んで
generally to get around reluctantly
おいででございました。」

老人はちょっと 息 を切りました。私は足 もとの小さな 苔 を見ながら、この怪しい空から落ちて赤い焔につ
breath be through foot moss dubious

つまれ、かなしく燃えて行く人たちの 姿 を、はっきりと 思い浮べました。老人はしばらく私を見ていました
figure clearly to remind of

が、また語り つづけました。
to tell (vt) to continue

「沙車の 春 の終りには、野原 いちめん 楊の 花 が光って飛びます。 遠く の 氷 の 山 からは、白い
spring the whole surface flower to shine (a-no) far away ice mountain

何とも云えず 瞳 を痛くするような 光 が、日光の中 を這ってまいります。それから 果樹 がちらちら
pupil (of eye) painful light sunlight inside to crawl (uk) and then fruit tree fluttering

ゆすれ、ひばりはそらですきとおった 波 をたてます。童子は早くも六つになられました。春のある 夕方 の
to swing skylark to be transparent wave fast evening

こと、須利耶さまは雁から来たお子さまをつれて、 町 を通って 参られました。葡萄いろの 重い 雲 の 下 を、
town to pass (by) grapes colour massive cloud under

かげぼうし こうもり す
影法師の 蝙蝠 がひらひらと飛んで過ぎました。
silhouette bat flutter (vi) to pass

子供らが長い 棒 に 紐 をつけて、それを追いました。
long pole string to chase

(雁の童子だ。雁の童子だ。)

子供らは棒を 棄て手 をつなぎ合って大きな 環 になり須利耶さま 親子 を囲みました。
extended hands hold by the hands ring parent and child to encircle

須利耶さまは笑っておいででございました。

こえ そろ to laugh
子供らは声を揃えていつものようにはやします。
voice uniform always to jeer at

(雁の子、雁の子雁童子、

空から須利耶におりて来た。)と斯うでございます。けれども一人の子供が冗談じょうだんに申しますには、
jest

(雁のすてご、雁のすてご、
abandoned child

春になってもまだ居おるか。)
(hum) (uk) to be

みんなはどっと笑はいましてそれからどう云うわけか小さな石が一つ飛ひとんで来て童子の頬ほおを打うちました
suddenly one cheek (of face) to hit

。須利耶さまは童子をかばかばってみんなに申まされますのには、
to protect someone

おまえたちは何をするんだ、この子供は何か悪わるいことをしたか、冗談にも石を投なげるなんていけないぞ。
bad to throw

子供らが叫んでばらばら走はって来て童子に詫わびたり慰なぐさめたりいたしました。或る子は前掛あけの衣まえか囊かくしから
disperse to apologize to console some... apron pocket

干ほした無花果いちじくを出やして遣はろうといたしました。
to dry fig give

童子は初はじめからお了しまいまでにこにこ笑わらっておられました。須利耶さまもお笑ゆるいになりみんなを赦ゆるして童子
beginning end (vs) smile to smile to forgive

を連つれて其処そこをはなれなさいました。
take along there to leave

そして浅黄あさぎの瑪瑙めのうの、しずかな夕ゆうもやの中でいわれました。
light blue agate evening

(よくお前はさときっき泣とうかなかったな。)その時童子はお父たまさまにななすがりながら、
some time ago time (hon) father to cling to

(お父さんわたしの前のおじいさんはね、からだに弾丸たまを七ななつ持つたっていたよ。)と斯う申つたされたと伝つたえます。
bullet seven to tell

巡礼の老人は私の顔かおを見みました。
face (person)

私もじっと老人のうまなこるんだ眼まなこを見あげておりました。老人はまた語まなこりつづけました。
eye

「また或る晩ばんのこと童子は寝付ねつけないでいつまでも床とこの上うえでもがうえきなさいました。(おつかさん
evening to go to bed indefinitely bed (suf) (a-no) above to struggle

ねむられないよう。)と仰しずっしゃります、須利耶の奥なさまは立しずって行なって静しずかに頭なを撫なでておおやりなさ
to sleep (an) quiet to brush gently

いました。童子さまの脳のうはもうすつかっかり疲あみれて、白あみい網あみのようになっあみて、ぶあみるぶあみるゆあみれ、その中あみに赤あみい大あみき
brain all to get tired net trembling to sway

な三み日月みが浮みかんだり、そのへみん一み杯みにみぜんみまいの芽めのようみなものが見みえたり、また四み角みなみ変みに
new moon to rise to surface full royal fern sprout to appear square strangely

柔やわらかな白ひろいものおそが、だはこんだんはこ拡はこがはこって恐はころしい大はこきな箱はこになはこったりするのはこでござはこいはこました。母はこさま
subdued (colour or light) gradually to spread (out) terrible box

はその額ひたいが余あまり熱あまいといあまって心あま配あまなあまさいました。須利耶さまは写うつしうつかけうつの経きょうもん文てに、掌てを合てせて
forehead excess (vs) worry to transcribe sutras the palm

立べちあがられ、それから童子さまを立おびたせて、紅べ革おびの帯むすを結むすんでやおもり表おもへ連おもれてお出おもになり
crimson leather obi (kimono sash) to tie outside

ました。 駅 のどの家ももう 戸 を閉めてしまって、一面の星の下に、棟々が黒く並びました。そ
station door (Japanese style) (vt) to close star roofs to stand in line

の時童子はふと水の流れる音を聞かれました。そしてしばらく考えてから、
to stream sound to consider

(お父さん、水は夜でも流れるのですか。)とお尋ねです。須利耶さまは沙漠の向うから昇って来た大きな
evening to ask desert

青い星を眺めながらお答えなされます。
to gaze at to answer

(水は夜でも流れるよ。水は夜でも昼でも、平らな所でさえなかったら、いつまでもいつまでも流れるのだ。)
level

童子の脳は急にすっかり静まって、そして今度は早く母さまの処にお帰りなりとうなります。
sudden completely to calm down now place

(お父さん。もう帰ろうよ。)と申されながら須利耶さまの袂を引っ張りなさいます。お二人は家に入り、
sleeve to pull to enter

母さまが迎えなされて戸の環を嵌めておられますうちに、童子はいつかご自分の床に登って、
to go out to meet link go into to climb

着換えもせずにぐっすり眠ってしまわれました。
to change clothes without (doing)sound asleep to sleep

また次のようなことも申します。

ある日須利耶さまは童子と食卓にお座りなさいました。食品の中に、蜜で煮た二つの鮒がござ
day dining table to sit commodity honey to cook two crucian carp

いました。須利耶の奥さまは、一つを須利耶さまの前に置かれ、一つを童子にお与えなされました。
to give

(喰べたくないよおっかさん。)童子が申されました。(おいしいのだよ。どれ、箸をお貸し。)
to eat delicious chopsticks to lend

須利耶の奥さまは童子の箸をとって、魚を小さく砕きながら、(さあおあがり、おいしいよ。)と
fish (vt) to break

勧められます。童子は母さまの魚を砕く間、じっとその横顔を見ていられましたが、俄かに胸が変な
to advise interval quietly face in profile

工合に迫ってきて気の毒なような悲しいような何とも堪らなくなりました。くるっと立って鉄砲玉のよ
condition to press spirit poison unbearable bullet

うに外へ走って出られました。そしてまっ白な雲の一杯に充ちた空に向かって、大きな声で泣き出しました
outside to leave pure white a lot of (oK) to be full

。まあどうしたのでしょうか、と須利耶の奥さまが愕ろかれます。どうしたのだらう行ってみろ、と須利耶さまも
to become aware of door

気づかわれます。そこで須利耶の奥さまは戸口にお立ちになりましたら童子はもう泣きやんで笑っていらしまし
たとそんなことも申し伝えます。

またある時、須利耶さまは童子をつれて、馬市の中を通られましたら、一疋の仔馬が乳を呑んでおったと
horse market foal milk drink

申します。黒い粗布を着た馬商人が来て、仔馬を引きはなしもう一疋の仔馬に結びつけ、そして
blemish cloth to wearhorse merchant to join together

黙ってそれを引いて行こうと致します。母親の馬はびっくりして高く鳴きました。なれども仔馬は
to be silent to pull (hum) to do mother be frightened to make sound (animal)

ぐんぐん連れて行かれます。向うの角を曲ろうとして、仔馬は急いで後肢を一方あげて、腹の蠅を
steadily corner to turn hind legs in turn belly fly

叩きました。
to clap

童子は母馬の茶いろな瞳を、ちらっと横眼で見られましたが、俄かに須利耶さまにすがりついて泣き出

されました。けれども須利耶さまはお叱りなさいませんでした。ご自分の袖で童子の頭をつつむようにして

、馬市を通りすぎてから河岸の青い草の上に童子を座らせて杏の実を出しておやりになりながら、しずか

におたずねなさいました。

(お前はさっきどうして泣いたの。)

(だってお父さん。みんなが仔馬をむりに連れて行くんだもの。)

(あの馬はまだ乳を呑んでいたよ。)

(それはそばに置いてはいつまでも甘えるから仕方ない。)

(だってお父さん。みんながあのお母さんの馬にも子供の馬にもあとで荷物一杯つけてひどい山を連れて行

くんだ。それから食べ物なくなると殺して食べてしまうんだろ。)

須利耶さまは何気ないふうで、そんな成人のようなことを云うもんじゃないとは仰っしゃいましたが、本統は

少しその天の子供が恐ろしくもお思いでしたと、まあそう申し伝えます。

須利耶さまは童子を十二のとき、少し離れた首都のある外道【※4】の塾にお

入れなさいました。

童子の母さまは、一生けん命機を織って、塾料や小遣いやらを拵らえてお送りなさいました。

冬が近くて、天山【※5】はもうまっ白になり、桑の葉が黄いろに枯れてカサカサ落ちました

頃、ある日のこと、童子が俄かに帰っておいでです。母さまが窓から目敏く見付けて出て行かれました。

須利耶さまは知らないふりで写経を続けておいてです。

(まあお前は今ごろどうしたのです。)

(私、もうお母さんと一緒に働らこうと思います。勉強している暇はないんです。)

母さまは、須利耶さまのほうに気兼ねしながら申されました。

(お前はまたそんなおとなのようなことを云って、仕方ないではありませんか。早く帰って勉強して、立派にな

って、みんなの為にならないとなりません。)

(だっておっかさん。おっかさんの手はそんなにガサガサしているのでしょうか。それなのに私の手はこんななん

(そんなことをお前が云わなくてもいいのです。誰でも年を老れば手は荒れます。そんなことより、早く帰って勉強をなさい。お前の立派になることばかり私には 楽しみ なんだから。お父さんがお聞きになると叱られますよ。ね。さあ、おいで。) と斯う申されます。

童子は しょんぼり 庭 から出られました。それでも、また立ち停ってしまわれましたので、母さまも出て

行かれてもっと向うまでお連れになりました。そこは 沼地 でございました。母さまは戻ろうとしてまた (さあ、おいで早く。) と仰っしゃったのですが童子はやっぱり停まったまま、家の方をぼんやり見ておられます

ので、母さまも仕方なくまた振り返って、 蘆 を一本抜いて小さな笛 をつくり、それをお持たせになりました。

童子はやっと歩き出されました。そして、 遥かに 冷たい 縞 をつくる雲の こちら に、蘆がそよいで

、やがて童子の姿が、小さく小さくなってしまわれました。俄かに空を羽音がして、雁の 一列 が通りました時

、須利耶さまは窓からそれを見て、 思わず どきっと なされました。

そうして冬に入りましたのでございます。その 厳しい 冬が過ぎますと、まず楊の芽が温和しく光り、沙漠に

は砂糖水 のような 陽炎 が 徘徊 いたします。杏や すもも の白い花が咲き、 次で は 木立

も草地もまっ青になり、もはや 玉髓 の雲の 峯 が、 四方 の空を 繞る 頃となりました。

ちょうどそのころ沙車の町はずれの 砂 の中から、 古い 沙車大寺のあとが掘り出されたとのことでござ

いました。一つの壁がまだそのままで見附けられ、そこには 三人 の天童子が描かれ、ことにその一人は

まるで生きたようだと言みんなが 評判 しましたそうです。或るよく 晴れた 日、須利耶さまは 都 に出られ、童

子の 師匠 を訪ねて 色々 礼を 述べ、また三巻の粗布を 贈り、それから半日、童子を連れて歩きたいと申

されました。お二人は 雑沓 の通りを過ぎて行かれました。

須利耶さまが歩きながら、何気なく云われますには、

(どうだ、今日の空の 碧い ことは、お前がたの年は、 丁度 今あのそらへ飛びあがろうとして 羽 を

ばたばた 云わせているようなものだ。) (vs) clattering noise

童子が大へんに 沈んで 答えられました。

(お父さん。私はお父さんとはなれてどこへも行きたくありません。) 須利耶さまはお笑いになりました。

(勿論 だ。この人の大きな旅では、自分だけひとり遠い光の空へ飛び去ることはいけないのだ。)

(いいえ、お父さん。私はどこへも行きたくありません。そして誰もどこへも行かないでいいのでしょうか。)

ふしぎ
とこう云う 不思議 なお尋ねでございます。
(an) wonder

(誰もどこへも行かないでいいかってどう云うことだ。)

はな
(誰もね、ひとりで 離れて どこへも行かないでいいのでしょうか。)
to be separated from

(うん。それは行かないでいだろう。) と須利耶さまは何の気もなくぼんやりと斯うお答えでした。

ひろば とお ぬ だんだん こうがい すな
そしてお二人は町の広場を通り抜けて、だんだん 郊外 に来られました。沙 がずうっとひろがっておりました
plaza to cut through gradually suburb sand

ふか ほ たくさん
。その砂が一ところ深く 掘られて、沢山の人がその中に立ってございました。お二人も下りて行かれたのです
deep to dig many

いろ
。そこに古い一つの壁がありました。色 はあせてはいましたが、三人の天の童子たちがかいてございました。
colour to fade

おも
須利耶さまは思わずどきとなりました。何か大きい重いものが、遠くの空からぱったりかぶさったように思われ
heavy suddenly cover
ましたのです。それでも何気なく申されますには、

でき こわ てんどう に
(なるほど立派なもんだ。あまりよく 出来て なんだか 怖い ようだ。この 天童は どこか お前に肖ている
(id) I see to be able to frightening in some respects to resemble
よ。)

たお
須利耶さまは童子をふりかえりました。そしたら童子はなんらか変わったまま、倒れかかっていたら
to look back somehow to fall

いそ だ と うで ゆめ
須利耶さまは愕ろいて急いで抱き留められました。童子はお父さんの腕の中で 夢 のようにつぶやかれました
hurriedly to catch in one's arms arm dream to mutter

むか
(おじいさんがお 迎い をよこしたのです。)
to go out to meet

須利耶さまは急いで叫ばれました。

(お前どうしたのだ。どこへも行ってはいけないよ。)

かす
童子が 微かに云われました。
(an) faint

ゆる か おう
(お父さん。お許し下さい。私はあなたの子です。この壁は前にお父さんが書いたのです。そのとき私は王の
pardon to write king

え しゅっけ
……だったのですがこの 絵 ができてから王さまは殺されわたくしどもはいっしょに 出家 したので
picture entering the priesthood

てきおう てら や ふつか ぞくふく き こいびと
したが 敵王 がきて 寺 を焼くとき 二日 ほど 俗服 を着てかくれているうちわたくしは 恋人 があってこ
enemy king temple to burn two days vulgar clothes to wear lover

のまま出家にかえるのをやめようかと思ったのです。)

ひとびと あつま くちぐち
人々が 集って 口々に 叫びました。
people to assemble unanimously

(雁の童子だ。雁の童子だ。)

いちど くちびる
童子はも一度、少し 唇 をうごかして、何かつぶやいたようでもございましたが、須利耶さまはもうそれをお聞
once lips (vt) to move

きとりなさらなかったと申します。

私の知っておりますのはただこれ だけ でございます。」
mere (uk) only

なご お
老人はもう行かなければならないようでした。私はほんとうに名残り惜しく思い、まっすぐに立って
truly regret upright

がっしょう
合掌 して申しました。
(vs) pressing one's hands together in prayer

とうと ものがたり たが
 「尊い お 物語 をありがとうございます。まことにお互い、ちょっと沙漠のへの泉で、お眼にかかって
 precious tale really mutual border
 ひととき ぞん
 、ただ 一時 を、一緒に過ごただけではございますが、これもありそのことではないと存じます。ほんの
 short time trifle (hum) to know just
 とお たびびと
 通りがかり の二人の 旅人 とは見えますが、実はお互がどんなものかもよくわからないのでございます。
 to happen to pass by traveller
 スガタ しめ みち すず むじょうぼだい いた
 いずれはもろともに、善逝 [※6] の示された光の道を進み、かの無上菩提 [※7] に至る ことござい
 where to indicate road to advance to come
 わか
 ます。それではお別れいたします。さようなら。」
 farewell (uk) good-bye
 かえ
 老人は、黙って礼を 返しました。何か云いたいようでしたが黙って俄かに向うを向き、今まで私の来た方
 (vt) to return something
 あれち はんたい いさ
 の 荒地 にとぼとぼ歩き出しました。私もまた、丁度その 反対 の方の、さびしい 石原 を合掌したまま進み
 fallow (land) trudgingly opposition desolate stone field
 ました。

●入力者注

- ※1 流沙 = 中国 のタクラマカン砂漠を指す。
 chūgoku さばく さ
 China desert to point
- ※2 沙車 = タクラマカン砂漠にあったといわれる 古代 の都市。
 こだい とし
 ancient times town
- ※3 眷属 = 一族 の 意味。
 いちぞく いみ
 a family (vs) meaning
- ※4 外道 = 他 教 の 信者 の 意味。 仏教徒 が他教の信者を指す 際に 使う。
 ほか おさむ しんじゃ ぶっきょうと さい つか
 otherOsamu (g) believer Buddhists in case of to use
- ※5 天山 = 中国・キルギスタンの 国境 近くにある 山脈 を指す。
 くにざかい さんみやく
 boundary (nation, state, etc.) mountain range
- ※6 善逝 = 梵語 で、 悟り に 到達 した者の意味。
 ほんご さと とうたつ
 Sanskrit Buddhist enlightenment (vs) reaching
- ※7 無上菩提 = 無上はこの上ない、菩提は悟りのこと。
 のぼ
 to rise

底本：「インドラの網」 角川 文庫、角川 書店
 かどがわ ぶんこ しょうてん
 Kadogawa (s)library bookshop
 1996 (平成 8) 年6月20日 再版
 へいせい さいはん
 Heisei (reign of Emperor) reprint(ing)
 底本の 親 本：「新 校 本 宮澤賢治 全集」 筑摩 書房
 おや しん こう ぜんしゅう つかま しょぼう
 parents (pref) new(suf) -school complete works Tsukama (loc) library
 1995 (平成7) 年5月 発行
 はっこう
 issue (publications)

入力：浜野智

こうせい
 校正：浜野智
 (vs) proofreading

1999年7月26日 公開
 こうかい
 (vs) presenting to the public

1999年8月26日 修正
 しゅうせい
 (vs) amendment

あおぞら さくせい
 青空 文庫 作成 ファイル：

blue sky producing

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp>) で作られました。入力、

the Internet

としょかん

library

つく

to make

校正、制作 にあつたのは、ボランティアの皆 さんです。

(vs) work (film, book)

volunteer

everybody

Additional readings and English translations added by Michael Koch (tensberg@gmx.net). All errors are probably mine.